

中学の先生にVRTを受けていただきました

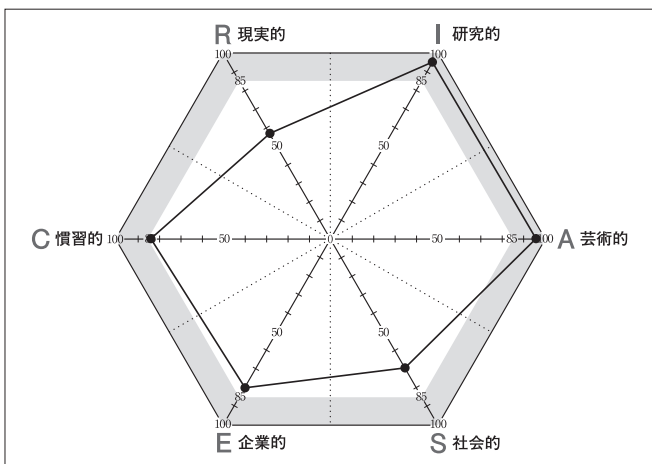
お二人の先生の職業レディネス・テストのA検査（興味）の結果プロフィールをご紹介します。

職業は1つの仕事だけをやるというものではありません。例えば「教師」という1つの職業も、実際には様々な仕事を含んでいます。一定の目的を持った仕事のまとまりが課業（task）であり、複数の課業が1つの職務（job）を構成します。職業は、職場の枠を越えて一定の類似性からまとめた一群の職務のことです。1つの職業に就いたとしてもその中で複数の仕事をしていくのが普通であり、職業名にとらわれすぎないことが大切です。VRTの6つの職業興味領域は、特徴的な傾向に基づき大きく類型化されたものであり、職業例もその領域的な仕事だけで成り立っているわけではありません。

教科の研究会での発表、イラストのキャッチコピーを考える…

●細井千恵先生

町田市立木曽中学校 教諭（国語科）



●細井先生の興味が高い職業領域

- 1位：I 研究的職業領域
- 1位：A 芸術的職業領域
- 3位：C 慣習的職業領域

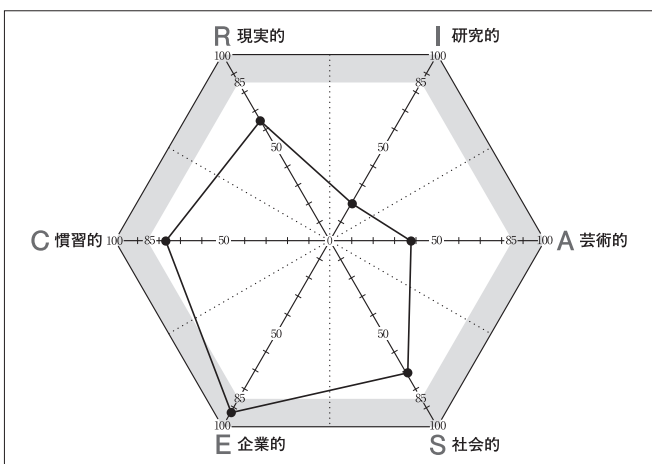
細井先生は大学で国文学を専攻し、「日本書紀」や「古事記」に惹かれ、主に神話について学びました。国文学の持つ面白さや奥行きを深さを仕事に生かせる道と考えて教員を目指しましたが、Iの研究領域への興味の高さにもそうした面が表れているようです。自分の教科を深めるために研究会等に参加し、ときに発表者になることもあり、また総合学習の授業等での調べ学習の内容を考えたりする場

面でも、そうした興味が生かされているように思えるといえます。Aの芸術的領域についても、「イラストに付けるキャッチコピーを考えたり、詩を読んでその場面をイラストにする授業をしたりする時に、クリエイティブな感性が必要だろうと思います」と話します。細井先生の「中学の時には料理人になりたいと思っていました」という言葉からも、探求的なものへの志向がうかがえそうです。

自分のアイディア、イメージを、協力しながらより良い形にしていく

●勝峰 夏先生

町田市立南大谷中学校 教諭（英語科）



●勝峰先生の興味が高い職業領域

- 1位：E 企業的職業領域
- 2位：C 慣習的職業領域
- 3位：S 社会的職業領域

中学校での教育実習を通じて「生徒を指導することによって、理解してくれたり、できなかったことができるようになったりする」のを目の当たりにし、「達成感や充実感を得られたことで、教員になろうと決めた」という勝峰先生。興味が強かったというEの企業的領域については、「型にハマらず新しいアイディアを入れながら授業を展開していったり、学年や学校の行事を自分のイメージからつくり

あげ、他の先生方と協力しながら、より良いものにブラッシュアップしていったりする際に発揮されているのでは」との感想でした。大学では異文化コミュニケーション学部で、「価値観や文化の違いを理解しながら、自分と異なる考えを持つ他者といかに向き合い、共に生きるかを考えていました」。Cの慣習的領域は、「出席簿や成績をまとめる作業などに必要とされる要素ですね」といいます。